

行政を多様な人間社会の一部として分析する

篠原舟吾 しのはらしゅうご

総合政策学部 准教授

英語と日本語2つの研究会が交流しながら、国際的に行政を分析しています。まだ2年目と新しく、学生主導で活動内容が刻々と変化しています。

近年メディアやSNSで、公務員批判を目にしない日はありません。日本の行政への信頼度は非常に低く、100カ国以上で実施された世論調査 World Values Survey 2010-14によれば、日本の行政サービスの信頼度はOECD加盟国中チェコ、ギリシャ、メキシコに次ぐ下位です。

研究会は、市民と行政のより健全な関係を模索するため、市民の行政に対する態度や行動を実証分析しています。学生には行政を分析する上で、人間は完璧ではなく、公務員も市民と同じ人間であることに留意してほしいと指導しています。

日本国憲法において公務員は「全体の奉仕者」として規定されていますが、多様な市民すべての要求や願望に応えることはできません。国家および地方公務員法は、公務員が「全力を挙げて」職務の遂行に専念することを規定していますが、市民からの批判や待遇悪化によりモチベーションは低下します。公務員を制度や組織の中の歯車のように

に捉えるのではなく、自らの要求や願望を持つ人間として捉えることで、より民主的かつ効率的な行政運営が可能になると考えています。

研究会では、理論や統計を座学で学ぶほか、現地調査を実施し、自治体の公務員や議員の方にインタビューしています。学生には、インタビュー手法を学ぶ上で、論破するのではなく、対話をしてほしいと指導しています。理論や分析を駆使して相手を圧倒するのではなく、相手の方を理解し、行政の課題について議論する術を学んでほしいからです。

行政への批判は、健全な民主主義の証拠とも言えます。しかし、公務員批判を強めることで、行政運営能力が低下する可能性も考慮しなければなりません。例えば、批判を恐れる公務員は、課題解決に向けて困難な挑戦をしなくなるでしょう。日本の行政が、市民と共に新たな課題と向き合える未来を、学生と創り出していきたいです。

協働×失敗×成長

市川裕也君 いちかわゆうや 総合政策学部3年

篠原研究会では、行政に関するさまざまな分野の研究を行っています。私たちの暮らしを支える行政を、世界最先端の知見を取り入れながら分析できる極めて貴重な場です。行政学では、行政と住民が協力して優れた公的サービスを提供するCo-Production(協働)という考え方があります。私たちの研究会はこれを実践し、普段の活動から現地調査に至るまで、先生と学生が学び合いながら活動しています。人間は完璧ではありません。だからこそ、私たちは失敗を恐れず、時に楽しみながら、皆で協力して一歩ずつ成長していくことを大切にしています。



「病院薬剤学教室」が担う義塾の医療薬学研究

あきよし たけし
秋好健志

医学部病院薬剤学教室 専任講師

病院薬剤学教室は、医学部・薬学部、大学病院間の研究と教育の連携拠点として、2021年9月に信濃町キャンパスに新たに設立されたClinical research unitです。

医学部病院薬剤学教室は、医学部と薬学部の共同運営講座として2021年9月に信濃町キャンパスに設置されました。当教室は、医学部、薬学部、大学病院の三者間の連携を強化し、高度先進医療において重要な役割を果たすとともに、Pharmacist-Scientistを育成・輩出することを目的とし、臨床と研究を両輪とした慶應義塾ならではのClinical research unitとして始動しました。2022年5月からは、同キャンパス総合医科学研究棟4階において研究室の稼働を開始し、現在、病院薬剤部長でもある大谷壽一教授を中心に、教員5名、薬学研究科大学院生、薬学部学生など総勢約50名が活動しています。

教室の研究基盤である「薬物動態学」は、薬物の体内動態を評価、解析する学問です。具体的には、精密医療に不可欠な薬物血中濃度コントロールに資するため、質量分析技術を用いた生体機能蛋白質の定量や遺伝的解析など、

患者個別化に有用な情報の創出を目指しています。また、これらの技能や知識を用いて、薬物治療に関して医療従事者が直面するさまざまなクリニカルケースの解決、支援、教育も担っています。

実質稼働開始からわずか半年余りですが、病院の診療科や薬剤部との共同研究を始めています。我々が持つ薬学ならではの研究手法や問題解決手段は、医学部においても臨床研究や医学系基礎研究の一手段として有用であると信じ、今後も共同研究を広げていきたいと考えています。また、理工学部との連携により工学的リソースの医療応用にも着手するなど、全ての分野とのさまざまなコラボレーションを、患者救済の一点に集約して展開しています。これからも、病院薬剤学教室は、医学部や病院薬剤部との連携を基に、Pharmacist-Scientist教育を実装し、世界に冠たる慶應義塾医療薬学研究の展開を目指します。

臨床を知る研究者が育つ環境

かたおかひろき

片岡寛樹君 薬学研究科後期博士課程2年

病院薬剤学教室は医学部・薬学部・大学病院の連携拠点であり、研究者としての視点と医療従事者としての視点を身に付けるのに最適な環境です。研究生活においては臨床経験豊富な教員の方々の指導により、研究の取り組み方に加えて実臨床における薬物治療上の課題についても理解を深めています。2022年6月に行われた新薬勉強会では大学病院の薬剤師の方々をお招きし、薬剤師目線での薬物治療の実情に根差した新薬の評価を伺うことができ、病院との連携の意義深さを感じました。当研究室で得られる研究遂行能力と臨床からの視座は医療上の課題の立案・解決に対して十全に活用できると考えています。

研究室紹介動画とWebサイト▶

